

良好な景観の形成に関する方針

(1) 目的

高野山は弘法大師が真言密教の道場として開創された伝統と歴史ある街です。わたしたち高野町民はその歴史、文化を受け継ぐまちなみを守り、美しい景観をつくっていきます。そのため、この景観法による景観計画を定め、守り、発展させていきます。

(2) 基本方針

高野町には伝統的な日本建築をつくります。

1200年の歴史を持つ高野山には国宝をはじめとする美しい日本建築が多数存在します。それらの景観的に優れた建物はいずれも木造で、勾配屋根をもち、白壁や木壁には端正な窓をもち、軒や庇が深く、高野山の山並みに融和した形態を持ちます。これらの伝統的な木造建築物の屋根、壁、庇、スケール感を基本とした建物をつくっていきます。

高野山の伝統的なかたちや材料を基本とします。

高野山の寺院は築地塀に厳粛な門を開き、その内に前庭を持っています。前庭には表玄関、本堂、庫裡等がバランス良く配置され、庫裡や宿坊の背面には八葉の山を借景とする庭を持ちます。一方、商店街は屋根の勾配や軒を揃え、一部には蔵や小庭に高木を植えて街並みを連続させていました。これらの伝統的な形を継承し、あるいは再生していきます。

高野山は山内で多くの木材を産出しています。また、様々な職種の職人が住んでおり、外部に頼らずに建築がおこなわれてきました。そのため、屋根や壁の素材の種類は限られており、調和の取れた景観を造りだしてきました。材料の種類を制限し、街並みの連続性を図るとともに、創意工夫により独創的な変化をもたらす景観を創造していきます。

建物や工作物の形状・色彩を周辺環境に調和させます。

寺院と商店、住宅が混在する高野町において、周辺の建物や自然環境と調和させて建設をおこなうことが美しいまちなみを創造する上で肝要です。特に周辺の森や地形は修行の場である高野の本質です。これらの自然との接点では自然を主に建物を従として計画します。また、建物や工作物はまちなみとしてみれば公共性の高い物であることを認識し、連続する街並みを最重視します。隣に合わせることを基本とし、奇をてらった形状を用いず、彩度の高い色を使いません。

景観を損なうものをなるべく表に出さないようにします。

近年の過剰な看板や自動販売機、エアコンの室外機等景観を損なう物が増えてきました。看板の形態や色、個数を制限し、自動販売機やエアコンの室外機等の機械類は公共空間から見えない位置に設置します。

新しい技術や材料を導入する場合は、周りの風景と調和させます。

シャッターやアルミサッシ、コンクリートブロック等の新建材、新工法は利便性や経済性は高いが、歴史ある世界遺産の町の高野町には不似合いである。基本的にはこれらの新しい技術や材料を導入しないよう努めるが、他に代用方法がない場合は色や形状の工夫により周りの素材や建物、風景と調和させます。